

## 織物研修修了生の括りワークショップ開催



ワークショップの様子

3月28日、研修修了生のフォローアップを目的に、織りの工程で一番むずかしい「括り」作業のワークショップがタケオの織物センターで行われました。

CYRの研修終了後、家で織物を続けている修了生は53名。当日集まったのは、そのうちの17名でした。ふだんは村の仲買人にシルク生地を織っている修了生たちも、それぞれの近況を楽しそうに話していました。

研修内容は孔雀の模様の括り方がテーマでした。この模様は、カンボジアのサンボットホール(※1)にもよく使われています。カンボジアの絹緋(※2)の特徴は、経糸は一色で、緯糸を括って模様を染め、織り込みます。カンボジアの伝統的な柄は200種類余りあるといわれていますが、若い村の織り手はたくさんの模様をまだ織ったことがありません。研修課題の模様は、七色の尾羽根を大きく広げた孔雀が横を向いている織物トレーナーのデザインです。

### (※1)、サンボットホールとは？

絹緋生地。カンボジア語で「絹緋のスカート」という意味。通常は女性の伝統的な民族衣装に仕立てられる。

### (※2)、絹緋とは？

糸を部分的に防染(ぼうせん)して染色し、それをたて・よこに使って織り、防染部分で模様をつくる織物、またはその模様

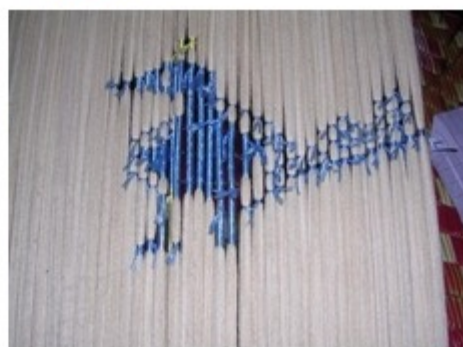
参加者はそれぞれ、トレーナーに質問しながら熱心に括っていました。「自宅で更に練習して、絹糸でサンボットホールを織りたいと」括り見本を嬉しそうに持ち帰っていました。

### ■CYRの織物事業についてはこちら

[→カンボジア女性の自立支援のTOPへ](#)



「括り」の作業



これが孔雀の柄になる



織物センターの前で